

会派代表質問

公明党

上代 和利 議員



市民の皆様への安心・安全を守り  
住み続けたいまちづくりをめざして

問 令和5年3月末までの大網地区、増穂地区、白里地区の高齢化率について

答 令和5年4月1日時点の各地区の高齢化率は、瑞穂地区及び山辺地区を含む大網地区が27.1%、増穂地区41.8%、福岡地区を含む白里地区44.4%となっております。市全体の高齢化率は、33.8%となっております。

問 独居の高齢者人数と75歳以上の高齢者世帯数とその方々の見守りについて

答 65歳以上の高齢者につきましては、毎年民生委員の協力を得て実施しています。「一人暮らし高齢者実態調査」において、令和4年度は2,165名でございました。また、75歳以上の高齢者世帯につきましては、住民基本台帳上の世帯数になります。令和5年4月1日時点で1,232世帯でございます。なお見守りが必要な高齢者につきましては、民生委員の月1回程度の訪問に加え、個々の心身の状況に応じて地域包括支援センターや在宅介護支援センターの専門職員による訪問や電話での見守りを行っている他、社会福祉協議会各支部などの方々による見守りも行われています。見守りが必要な高齢者のうち緊急時の対応に不安のある方に対しては、緊急通報装置を貸与し、月1回程度の安否確認の実施や急病時など緊急事態が発生したときの通報体制の確保に努めております。さらには、郵便局、宅配業者など民間事業者と協定を締結しており、日々の見守り活動を行っていただいております。

問 生活支援体制整備事業について  
答 生活支援体制整備事業における

高齢者に対する困りごとのニーズの把握に当たりましては、令和元年度に一人暮らしの高齢者の困りごとについて、民生委員の協力を得て聞き取り調査を実施したところでございます。令和3年度に、ふれあいいきいきサロンの参加者を対象に同様のアンケート調査を実施しております。さらに、第9期高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定のため、昨年の12月に高齢者や介護施設事業者等を対象にしたアンケートを実施し、支援等に対するニーズの把握に努めております。今後、要支援者を対象にした地域ケア会議、さらに各地域の多様な主体で構成する第2層協議体の話し合いの場での聞き取りなどにより、多くのニーズ把握に努め、地域でさえあい活動を通して、高齢者支援につなげて参りたいと考えております。

問 地域包括支援センターと大網病院との連携と今後の在宅医療について

答 大網病院に入院や通院している患者や受診相談等で支援が必要となる方に対しては、医療相談員と情報共有を図りながら、それぞれの専門性を活かし、相互に連携を取り合い、適切な医療やサービスへつなげる支援を行っております。在宅医療につきましては、入院や通院が困難な方に対し、住み慣れた地域で安心して生活できるように、医師による訪問診療や往診、看護師による訪問看護などの必要な医療や介護サービスが一体的に提供されるよう、今後、関係機関と連携強化を図っていきたく考えております。

問 本市環境基本条例の骨子について

答 大網白里市環境基本条例の骨子は、基本理念、責務を定める他、基本計画策定などの事項を進め、市民の健康で文化的な生活の確保に寄与することを目的としている。環境基本条例に基づき別に環境保全条例を定め、規制や措置を講じていきます。再生資源物の屋外保管に関する条例について

答 リサイクルが推進されており、有価物である金属スクラップ等の屋外保管の施設が増えている。その一部で事故の発生などの問題が指摘されており、千葉県が「千葉県金属スクラップヤード等適正化条例」の制定を進めているので、その状況を注視していきます。他にスマホを活用し、市の防災情報をもとめて入手できるような防災対策を推進できないか。また東金九十九里有料道路の一時避難場所の活用について、避難所になっているパチンコABCの状況についてを質問させていただきます。

関連質問  
引問真理子議員



問 がん検診の推進、受診率向上への取組について、がんは日本で40年以上にわたり死因の第1位となっており、男性の3人に2人、女性の2人に1人が生涯のうちにかかることと、国民の命と健康を守るため、がん対策を一段と強化すべきとお考えです。早期発見は、その後の生残率にも影響するため、普及啓発の強化が必要になります。

答 がん検診の受診率は令和4年度が9.94%で令和元年度と比べ、27ポイント下がった数値となっております。本市の小・中学校では、国

や県からがん教育推進のために提供されている教材等を参考に、子どもたちにごん教育を行っている。がん予防に対する正しい知識の普及は、どの年代の方においても大切であると認識しており、今後も引き続き啓発に努めてまいります。厚生労働省では、ナッジ理論を活用したがん検診の受診率向上を推奨しております。相手への働きかけ方を工夫することで自発的な行動変化を導く、こうした考え方を柱とする行動経済学、ナッジ理論はがん検診の受診率を向上させる周知方法にも活用できます。

問 市の健康ポイント事業があまりありますが、がん検診はポイント2倍にするなどの工夫や定期的に医師やがん経験者の外部講師を迎えた市民講座の開催等も意識啓発になると考えますが、市の見解を伺います。

答 健康ポイント事業の見直し及び市民講座の開催につきましては若年層への予防啓発や、市民の皆様へのがん予防対策の一環としての受診率向上に向けた取組として、今後検討してまいりたいと考えております。

問 脳ドック・带状疱疹ワクチンについて関心のある方も多く大網病院でも検査受診ができることを、来院した方へ、積極的に啓発していただきたいと思っております。

答 ホームページ及び広報紙を活用してアピールするとともに、来院した方に関心を持っていただけるよう周知してまいります。带状疱疹治療では、外来受診、入院、神経痛が残存する場合の治療に係る医療費等、結構な医療費負担になります。带状疱疹ワクチンの公費助成も、是非、検討していただきたいと思っております。また、大網白里市の観光ビジョンと街の魅力発信についても質問いたしました。

問 現在、アルミ缶、スチール缶、ペットボトルなどについては有料のごみ袋に入れて、青い袋などに入れて出していますが、もともともみ袋ではなくて資源化になるものだから、これは有料の袋でなくても良いのではないかと。指定袋を使用しない事例もありませんが、費用負担や路上における安全性などの問題もありますことから東金市外三市町清掃組合及び構成市町と今後研究してまいります。

個人質問  
新ごみ焼却場建設問題、  
高齢者対策について

蛭田 公二郎 議員



問 新ごみ焼却場建設は当初計画を大幅に上回る建設費、これが問題になったことから、計画は一旦中断ということになっております。しかし、この間の経過を市民は全く知らされていません。一体当初計画がいくらになったのか改めて説明頂きたい。

答 当初15.4億4千万円に対し、令和5年4月時点で約22.8億6千万円とのことであり、施設本体の設計及び建設工事にアクセス道路整備、地元対策費、環境影響評価対応費、現施設の解体工事費などを加えた総事業費18.1億5,400万円に対し、令和5年4月時点で約25.9億9,700万円のことです。

問 公正取引委員会が2011年11月に大手プラントメーカー5社を独占禁止法違反で、総額269億円の課徴金納付を審決したということで、1件の課徴金としては過去最高額になった、こういうことがありました。大手5社が1994年から98年まで、各自治体が発注するごみ焼却炉の建設工事の入札で、あらかじめ発注予定者を決めていたということですが、市民の血税、これを投入して行う工事です。1円たりとも市民の血税が無駄になることのないように、しっかりとしたチェックを要望します。

問 高齢者対策だが、緊急通報装置の貸与の推移、また、アルソックの駆けつけの実績について教示頂きたい。

答 緊急通報装置の貸与は、令和2年度が275台、令和3年度が257台、令和4年度が264台となっております。利用者に、委託している警備員が駆けつけた過去3年の実績につきましては、令和2年度が8回、令和3年度が4回、令和4年度が7回です。

問 補助器購入に対して助成を行っている自治体が今ほとんど増えている、去年はその前の年の3倍以上に増えています。助成の対象や助成額は自治体によって様々ですが、船橋市、印西、鎌ヶ谷では、2万円の助成、浦安では3万5千円とか、そういう助成があります。本市でもぜひ、この補助器購入の際の助成をして頂きたい。

答 助成を検討するに当たりまして、近隣自治体の動向を注視してまいりたいと考えております。